令和６年度第２回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会　会議概要

〇日　　時：令和６年10月21日（月曜日）13時30分～15時40分
〇会　　場：鶴岡市役所別棟２号館　21・22・23会議室
〇会場出席者：鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員　10名
武田　真理子委員長、佐藤　健委員、宮田　廣喜委員、髙橋　俊一委員、
髙橋　治郎委員、今野めぐみ委員、清野　康子委員、渡邉　健委員、
鈴木　貴大委員、遠藤　敬委員
〇市側出席者：市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局　24名
幹　事：伊藤　慶也市民部長、菅原　青地域振興課長、
加藤　明防災安全課長、藤澤　実環境課長、
玉津　卓夫廃棄物対策課長、阿達　和夫消防本部警防課長
事務局：コミュニティ推進課、地域庁舎総務企画課職員　18名
〇公開・非公開の別：公開
〇傍聴者の人数：０人

（13時30分　開会）

1　開　会　　（全体進行：コミュニティ推進課長）

2　挨　拶　　（挨拶：委員長）

3　報告・意見交換　　（座長：委員長）

（1）次期計画策定に係る意見交換会WS（９月13日開催）の内容報告　資料№1

(事務局)資料№1について説明

（Ａ委員）
高校生３名の参加は自主的な参加であったのか。どういう経緯で参加したのか。高校生が参加するのは良いことだと思ったので伺いたい。

（事務局）
担当者が致道館高校、鶴岡中央高校、庄内農業高校を訪問し、参加協力を依頼した。開催が夜であったため、授業での参加は難しいという話になり、高校生の自主的な参加となった。

（2）グループ討議について　資料№2、№3、参考資料１、2

(事務局)資料№2について説明

（委員長）
次の10年に向かって、基本理念、どのようなコミュニティ像を目指せばいいかを、皆様の意見、様々な情報を整理しながら意見をいただきたいのが、テーマ１になる。
テーマ２は、テーマ１の「10年後、どのようなコミュニティになっていたいか」、コミュニティ像や基本理念はこのままで良いだろうかという話し合いの上で、それを達成するための主体は、単位自治組織、広域コミュニティ組織、市という３つだけでいいのか意見を伺いたい。
出た意見をどのように生かすかは、事務局の宿題になる。

（Ｂ委員）
　どのようなプロセスで見直しを行い、いつどうやって決めるのかを説明してほしい。

（事務局）
　10 年前に基本方針が定められたが、これは抽象度の高いものであり、方向性を指し示したものである。それに基づき、具体性を持った計画として第二期推進計画が令和 7 年度までの計画期間ということで策定された。来年度が最終年度であり、令和 8 年度からの推進計画をどう考えていくかを来年度かけて見直しをすることを考えている。
　併せて、基本方針で定められた内容は 10 年経過しており、更に深刻化、もしくは、当時は認識してなかったことが顕在化しているということもあり得る。新たな要素がないのか、不要なものがないかを検証して、今年度中に基本方針、来年度は計画部分を見直していきたいと考えている。

（Ｂ委員）
　目指すコミュニティ像というものは、10 年前に設定されており、抽象的な表現で曖昧な目標だと思う。例えば「いい笑顔で挨拶を交わす心の通った地域コミュニティ」を取り上げて、実現されているかいないか、ということは判断しようがない。曖昧な目標を設定し、10 年行っても無駄だと思う。検証可能な具体性のある目標でないと駄目だと思う。
　もう 1 つは、切実感を持たなくてはいけない。衰退していくのが明らかな中、中途半端な設定で良いのかと感じる。

（委員長）
　位置づけとして基本方針は、総合計画で言う基本構想のことである。推進計画は課題を解決するだけではなく、何が問題で、時間をかけて取り組まなければならないか、あるいは課題解決ばかりでなく、新しいことに挑戦する、コミュニティ分野の「攻めの自治」を計画に落とし込むものである。
　地域の役員を担っている年配の世代と若い世代では、意識のギャップもあるという話があったが、10 年後どこに向かっていけばいいのか「あるべき姿」について定めておくことは意味がある。

（Ｂ委員）
　教員の授業の手法として、子供達に様々な意見を出させて拡散的状態にさせたのち、意見を整理し収束させるものがある。これで考えると本日は拡散だと思われるが、それをどのような形で収束させるか教えてほしい。

（事務局）
　本日のグループ討議で出てきた課題や目標を踏まえ、事務局側で原案を作成し、原案を活性化推進委員会で確認いただくという手順を想定している。

（委員長）
　抽象度が高い基本方針であるが、次の 10 年、多様な市民、様々な組織機関も一緒に協力しないとコミュニティ活性化がますます難しい状況になると認識される。共通のキーワードになるのが、基本方針だと思っている。

①「10 年後どんな地域コミュニティになっていたいか。また、目指すべきか。」

（Ｃ委員）
　Ａグループでは目指すべきコミュニティ像として基本理念に残すべきものと、新規に入れたいもの、あとはキーワードとして含めて欲しいもの、ということで発表する。
　まず、残すべきものについては、地域ごとの異なる文化、歴史を尊重することを残したい。自分は東京出身者であるが、鶴岡の土地は、文化、歴史が溢れており、後世にしっかり残していきたい。
　新規では、安心・安全や教育に関するワードを含めたほうがいいかと思う。
　教育環境が不十分であり、都内に比べると学校や塾も少ない。学ぶ場所が少なく、地域コミュニティでしっかりと下支えして教育の環境を充実していくことが必要だと思われる。
　安心・安全に関しては、若者世代だと結婚に対する不安、子育ての不安、子供の教育に対する不安、また、災害に対しての不安がキーワードになっている。
　また、同世代との関わりだけでなく、世代を超えて先輩方と話すことで何かしら新しい発想が出るため、世代間交流をキーワードとして含めたい。

（Ａ委員）
　Ｂグループでは、地域のリーダーが誇りを持つことが大事であるという話になった。地域のリーダーが誇りを持ち、個々人が他人事ではなくて自分事として地域をとらえ、主体的に動けるようになることが大事ではないかと思う。
　主体的に動くということは、皆が地域にそれぞれ関心を持つことである。主体的に各々が行動することで、コミュニティの活性化に繋がる。
　究極だが、今後は人口が減るという前提で、小さくとも、しっかりしたまちづくりをすることが重要ではないか。

②「10 年後目指す地域コミュニティを達成するために誰がどんな役割を担えばよいか。」

（委員長）
　前回の基本方針では、地域コミュニティの担い手として単位自治組織、広域コミュニティ組織、市があげられた。3 者は担い手として揺るぎないと思われるが、それだけでいいのか疑問である。テーマ 1 で考えたコミュニティを実現するためにどんな登場人物が必要で、またどんな役割を果たせばいいかを考えていただきたい。地元の企業、学校など様々な担い手が想定される。

（Ａ委員）
　Ｂグループでは、地域にある企業を巻き込むことが必要になるという意見がでた。単位自治組織、広域コミュニティ組織、市の役割の他に、企業の役割があってもいい。
　また、鶴岡ファンをつくっていくと、自然と鶴岡の広報の役割を果たしてくれるのではないかと思う。
　小中高生にも、地域のことを知ってもらい、鶴岡市民であることを認識してもらい、力になってもらうことが大事ではないのかという意見が出た。
　また、市のホームページと同様にコミセンごとにホームページを作成し、役割をデジタルで伝えていく。デジタルネイティブと言われている子供達には、有効ではないかと思う。

（Ｃ委員）
　Ａグループの主立った意見としては､1 つ目は､複数の地区で共同して地域コミュニティを運営していくということ。
2 つ目は、私も地域の自治会の実態を知らなかったが、基本的には 65 歳以上の方で会社を辞め時間に余裕のある方が地域づくりを担っているという話だった。その地域を担う若い世代、様々な年代が多様な意見を言わないと意味がない。若い世代、様々な年代の人達が参加できる

組織づくり、仕組みづくりについて行政とも一緒に考えていく必要がある。
　あとは、学校との連携。例えば、高齢者向けのスマホ教室を行う時に、朝日地区では高校生に講師になってもらっている。担い手を確保するために教育機関と連携し、学生に参画してもらってもいいと思う。学生が地域のために活動する意義やメリットを提示し、参画するよう重きを置くべきでないか。

（委員長）
　鶴岡在住者以外でも、お祭りの時に担い手として参加する関わり方であるとか、移住してきた多様な人達と一緒に地域コミュニティで生きていくとか、本日のグループ討議で議論できたと思う。また、地域コミュニティの担い手として企業が挙がった。企業にも地域コミュニティの意義、価値を共有し、働く世代も参加しやすいよう、ボランティア休暇のような制度を導入するなど理解を得ることが大事かと思う。
　Ｂ委員から最初に目的、今日やることの意味について質問いただいたおかげで積極的にご意見いただくことができた。文言を変えただけではない、意味のある基本方針の見直し作業が進むかと思う。次回まで整理されると思うので、事務局にお願いしたい。

4　閉会（15 時 30 分）